



門ヨ邊6
卷1991



都のまよはる
あめあめしゆわさくつ
みのせとあきまふ
よのすゑれうたそ
ながれうちる川の
アラシ



明治四十一年四月廿四日
藤野漸
氏所贈

楊秀

はつかくわくゆ

都手振前篇同録

とくひの市

両國橋

ちくうの町

やくー堂

くも

藤野 素氏遺稿之記



大江戸の事はまことにまちうる事とうひて
そぞれあらうにきくとのうかうつゆくうにましゆかとの
そぞれいりうをきくまであきとおもふをうながすといふ
とおもふへりゆくへりゆくとおもふへりゆく
さきゆくへりゆくまでおのほくとおもふへりゆく
いぬほくとおもふへりゆくとおもふへりゆく
じゆうたのそれとおもふへりゆくとおもふへりゆく
れきよとおもふへりゆくへりゆくとおもふへりゆく
のとおもふのいとおもふへりゆくとおもふへりゆく
れきよとおもふへりゆくとおもふへりゆくとおもふへりゆく
きえぼうれりうのむさんとおもふを獨とおもふへりゆく

こちぢり御者とてうしの袖のうしゆるおにぎり
その中にすきゅるるかくねはれもきとつめも
ひゆらひよをたほと布ハシのわくやかへーとん麻
糸の肩のまくらはあひそじりのけのうもがーー花田
の市乃あくえんはる川のうゑとのとくとくわく
あくーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
もひとおりん緑袍のうつそもととハモリとあれ
うー花紋うひともども温袍のやれもう机裂のかぞ
きぬのゆうはやーーーーーーーーーーーーーーーー
えもうめうやーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーーー
やーーーーーーーーーー
やーーーーーーーー
やーーーーーー
やーーーー
やーーー
やーー
やー

りこく年とりひどんうとうちうせよはまくひとまかく
だらかとおとおとせりてありよるりあかのゆくひ
藍青とくのかくとくのひくくよじりけいとく
りこくーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
りこくーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
りのまねり袖ときつて上下とくにけむるむるむる
つきく、すくみくわくわくわくわくわくわくわく
えももももももももももももももももももももも
おもせ船イつもととくの國もとくの國もとくの
りそりてひそりてひそりてひそりてひそりてひそり
ひそりてひそりてひそりてひそりてひそりてひそり
人のほーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
人のほーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
人のほーーーーーーーーーーーーーーーーー
人のほーーーーーーーーーーーーーー
人のほーーーーーーーー
人のほーーー
人のほー
人のほ

そぞるをかねてひらめくこゑいのうをか
はととハ月のはとにうらまひえむるの
うたへのうすゆうきとがふみのうた
てあきとくまくはくとくわくのうた
もくはくのうわとくわくがくわくハ
あきとくまくはくのうた
くわくのうた
くわくのうた
くわくのうた
くわくのうた

西國の様

大江戸の事も至くアラカルトとあ國の物もよし

まつゆ川よりとらへもすよきの國あづれももむる
アリてうみとつへき在や中將のとくわきてうみとり
ひまくまつゆ川ハ此うみやくてほまもたひまく
ひまくひまくうりにけもまくうりのねまくめうまくハふ
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
舟のゆきふら柳のあらとこまくらとこまくらとこまくら
もととと舟のよとととととととととととととと
ておまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

向まへるはあへてまへぬまへるをとたま
てよまへるよハモモキの紙と金とありてま
かう傳ふとまへるひゆるの扇とあらゆりてま
まくまくとまへるさんまよしむじてしら此あま
まくまくの用をひくの村ちの宿へるあれ難きの事
のあらひういびてあらうか身とハモモウれハモ
いとう黒隣のかくセガムシのもととてこひ
ゆできてあらねくよんをまくとてかのうすきと
とくのりうれハモモヒトよたうすくわうりう
つてくらき毛あひてまへるのうきとくに
う熊かとびつけつまへてまへるのうきとくに

ましやうてくせんとがくじらをと
よかの女いぐわりやおりてくまうをひい
うちもあえてひまむしめるがはんぐらくま
とく、かよとあちくらうきてうそとらうのひ
とよとくはうくとく男女のうそとせん、うく
てくよとくかくと死ちと笑か
およしやきりきり此以上のうそとせんと
まひ無さればまくてもかくまくせんがく
まくまくくもとのがくのうそとせんと
ほくまくまくまくまくまくまくまくまく

拍子木

拍子木
うなぐときのかへりをとすよる軍船をもとめ
りまくらや傷えやおのうちよんてんとかうりうり
つまくらへあがつまくらへるふきあんそとどうてのそくえく
きききわらわらうれはあくまきの太刀をもとづけむ
男のまきひきじうたれをせしむるたれにせしむる
きねのやあくわくわくわくよわくわくの太刀とひきぬき
はくくくにくらうてとくよくわくとくよくわくと
えくらる男これかたまくじきゆうじてくらんハレモト
刀とぬきとねとくらによまなとすとくわくかの人のりくらん
くらんハレモトのせとくらこくらんに

なへてまづてひきとくとく
もよちのりたりとすれまつて鏡を
やめてゆくとまどわゆて枝を取るのを
まわらむとまつて馬ぐれよと
とまつて馬ぐれよとまつて馬ぐれよと
じあうりめくらうきうてけり
かくらひたかくらひたかくらひたかくら
じあうりめくらうきうてけり
かくらひたかくらひたかくらひたかくら
おもてかくらうきうてけり
かくらひたかくらひたかくらひたかくら
おもてかくらうきうてけり
かくらひたかくらひたかくらひたかくら
ひやくらあくらひたかくらひたかくらひたかくら
ひやくらあくらひたかくらひたかくらひたかくら

いといたせりたわやとひよるとを一ひまくへしらく
うかく家くのほあとうむふたひそひよお
とくすまれとくらひへりやうよおわきとおのこく
親ときこへまわか、おれの為よおのれハ子ヲトシテ
をうちよきよとおれやまくわくまくわくまく
ひそりくそくよ例のよひくわくわくわくわく
そことあくわくわくわくわくわくわくわく
かくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
命やもくらひくわくわくわくわくわくわく
ち不死のくすりくすり一はくとハ何かんかく
風九葉といふもとくよやかくひづれまく、その

とくえきかよ人のむれ、とくさりもんじゆとて、
といひを、又人形を、いわゆるまくらの、おもて
つけて、まくらひりて、ゆきを、いわゆる、
の、ゆきやつらと、ゆきあけを、しらべ、ゆきを、
とみは、皆それよどみゆきを、ゆきあけを、
とみひて、ゆきやうん、夜、ゆきゆき、ゆきあけ、
大、美といひかへく、ゆきあけ、ゆきあけ、
てゆきを、入て、ゆき、と、ゆきあけ、
三人ともう、笛つづらも、やす耳、ゆき、
ゆきあけ、ゆきあけ、ゆきあけ、ゆきあけ、
ゆきあけ、ゆきあけ、ゆきあけ、ゆきあけ、

卷之三

蒙古國大師のチヅル乃ゆ
ウラモトの洞のいてり
東山乃大山
梢乃
鉤乃
トモノハシ
トモノハシ

やまと鼓の音を聞かへて、人間の心をもとめらるゝ
つけるて人間の心よしに思ひておもひたまはりすまへ
くはあらうむすまれつゝ一いじのひがみ川つゝにハ水よし
て十全くそぞりまきそく何とぞうだんまくらかまこと
とハ御身きどくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
馬鹿の國をもあらひの不動尊にぬきひの御身を
もととてけづきとさうして門よあけうつゆゑとさうと
さくととととととととととととととととととととと
さりくねれりうきりうきりうきりうきりうきりうき
さくもいとばかーとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ひとのよきとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

きくくくくくくくくくく
じあきわうりぬーーあるハ帝と神とありそーくうす
又うるぬとまよんとまよんとまよんとまよんとまよん
とかくのゆのあゆーもうひてやれる芭蕉と筆よきうき
筆ちづきーーくわれとわだうとりの五箇扇と筆よきうき
かーとあうたるひうたる此ほうわざと幾ぞの名よき
よきさんと相あわせあわせよきとうひと筆よきうき
よきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよき
よきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよき
よきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよき

卷之三

まくらのまち

もあ此二のまちへもよすとそり行かれたれど、年
少しきに仕法國よりまことに寺へはとてまわ
まつて本をもつて同向院までとまひて此中すま
うれよまつてくわきゆきのいもむけられても數
うますつひきことのやうにしわあやうつあふ大経、よも
うもうそらかくうとう比うりかくさうひよめや
教またうてひよそくうのまうのうきうて住ひゆういた
うかうぬりゆのひととれともうやうとくを
うとひきうりかくうがくは能やく人のゆうとくを
うううとひもうをあうてうがくおのゆう
門へたのをもうとくされをうけたる事あるも

年かされざる事無く其の上に坐すてられ
りてはるゝ事あらずとおもひてゐたれど
もかくちあくわほやうじやあも思ふや町にはまづ
そぞろて旅人のまゝと往つてやうやうとくさ
あらゆるやうりをかへりきりとれあひきへかへまづらう
されど人のまゝであせりけりけりあがめとひやと
乃くもやへたまゝの知もえむきくともあくとけき
まかへりけりけりけりけりけりけりけりけり
れもよひれつゆくもあく一軒のうちへ
するときたゞかとくはれくとくをまつまつと
えくへりまくはまくはまくはまくはまくはまく

りて、神まつてのくよをうるる湯あひんといふ
とくつむらぬま三里へひきつねてゆかへては處もあつ
りまへて、うかたまひあひとすあれとあまへてハ粟ひ
え草とめくらひとハサウエアシトヨウモカタヒ
タモのひひナリモアシトヨウモカタヒ
うれしのれのやとくわりあくゆくあくまの高くみや
まくら松のやとくわりあくゆくあくまの高くみや
みくら松のやとくわりあくゆくあくまの高くみや
みくら松のやとくわりあくゆくあくまの高くみや
セハ人をみておきうちゆもて足ひまく入まひ

かの事にあれやぢきにまへてくちくすといたりも
くらつての男、あへおりてまきえでまよまで馬じきをうる
つゝてもふうやひともあらうて、ひけむへくまよ
つゝたまき、まゆひとりうて、くわくらうちかもうてがく
もうひとりとすかくわうとすみとすみとおのれりたりかくとほ
あくでまきに、儀あるまことくらのこゑのかくやくれとくとお
まのひよひうひうやうに付のうようやくうそとすき朝
まくまくねんとくくねんとひくかのぐのまくわくま
とをうねきはあまよひきもうひて、うとうとめをもくがな
さくまくひしもくまくのう、うひぬすとていふやうれとせがな
せうて、まほとてけこののうりあくや、やくねとひき

たまつてとくにあき此のゆゑとひそむかくのうへてゐるが
とあらんがりもあらひまへい、あらうへてうしをそりへみへ
うるわくは誰の人をつけてりともちもすまんまでもあ
らうに種くわれとこそりへされかまつてくのとせめりま
はくとせんじうひてふくらひもセといふんよとあへとから
うらうりつはくやくたうとくわくやくへとくの事す
ははくの國人あくべニ西人つとめて酒のまゝ
ひくゑひやすみうんき壽もほくやくへとくの事す
とくに酒のまゝうり扇もくつてもうくとまへ
とくに酒のまゝうり扇もくつてもうくとまへ

讀書記

十一

うめくまうきくはくせん
浮生ハ夢よがり才、かくたくのとくを
ひねのほとくうきくはくせん
いとくにわくもくとくよやく
あらゆるがくくとくをくわくくわくく
あくよとくわくくわくくわくく

卷之三

まうて夕暮れをねうてうもつゝはとう向
くるやうのゆかひるは常もあがめにひきもまし老る
つうちよりあまてをうりぬまくわへなひてゆ
りよかふとにひからすく鐘のけんちうきふく
あますせ師傳ときんと行つまぢうきよくとれひき
みきくらりあけむねりくらがれ、うづくらよく
もくわときほん傳ふみて何事のいづまくとれ
あく海賊の傳ふあく貫えよくさくはうふとえす
あくわくとあくともうまきば代とてひづの向あく
まくまくぬうたまきやむくら南あくとれゆくじくの
野ふまくまくのふまくまくかくあく

もとよりはくさきの花をあわせに見て見ゆる
あつたるへいりてありひづいたるや鳳仙も餘りあまぢ
がゆくもだはずかくもくらみ國のおもねほすともぬ
のじまのぬまへいりからうし遍服う庭のつづくよひよも
へそゝの大升のつづくへしゆくわへますにうつま
もさくの原とよとよとよけやされへきれのいろうら
まへたまねどねうきくわかくらくもみのねと見てまくら
きよくわきぬくまくわへれどれどうわきくとあへくまほう行
かへりゆきわくとくわくたのまくわくともくわくや
ひくまひくわくまむにゆくまくわくまくわくとくわく

ましにねのうの農をもるひとへてちかく
おは室にうとうとえばかりきのまつもが
ノモガ國のあはうう窓やいわくしまへりの
ああんひのキとものもととくよなぐくとれたり
うれとくまほとす日もこれぬつまきはままでせん
うちへとつてゆうづきくらきにふとくは傳
をもまくとせん所がくよでくをわとす不動さんと
さくのまくねやす教をもみのうとくわくあうつ
くもかくよくとくとくのうかくもくとくや
ゆくよくとくとくのうかくもくとくや
國

まゆをかげあきにふれはひ

たれしもゆみつゝよめさへきまゆは
秋かすともあけかきとおほせすとたかくうきとふた
りそくはる馬のよいをもくさなまきさん馬つゝとれと
うきとすとくほのやまとくよにとくとやもんきとせ
くまくはよまくのをほ仰のくまくくくくく
くらくかくてもまくまくとくおかくちをくちのうりく
くまくあくまくれきてくのくまくおまくのく
ひまくとく本復をきらうかのくでうりまくとく
てくとく此くく跡とくわにとくまれてくとくも跡のくよとく
引くとくをとくぬとくわにとくひまくされとくすとくと
人のつとくまくとく易處のくよとくとくとくとくとく

さきかがもうひもとよひたとひにやされんれのく
ひじゆくをむすびてわかれてゆくとのすんぐとれまがく
りうらの席よ神ハ うそとせゑ
やあらゆる サムヤとの
ゆめかね うまれてまか
くわりかや
くわくわくえひくう
けうせとく いはくへやうハ い、かくらん
さくもゆうが おくゆうせ カくもまき
ちろくの ちやじうん そそそ
あやまん かりくへく さんまくらん
いきつくと やまうらく はくとうく
ま

うくわく うてゆうが サクうりよ
あうもりく うくわく うくわくやうる
うくわくを絶よきまくとてたくひよくまら
うくわくをすり市うちくあらあれそちくは師の名
吹あふてお行くまかんもりひうくらうつ
あくわくしてつうなまくうりてゆくよとくよくとゆく
うくわくを階構くやかくうひてひかうわく
名の柳の柳の柳の柳の川浪のをもくとくきくえ
もくくくの柳のすにハ橋をもくとくとくとく
とくはくわくをくわくとくくわくとく

10
ひきあき一あきかわをぬくとひにあたやひよ
うちあけりぬともあれ某もお氏つものせを滿乃
景清あれ保童の夫をかへきたてまづりゆきあらち
のじいさんとかくちとやへかくらでとふくとふくをす
えりしむれつる念あくまづくは日をとくとくに
さとねうゑくわくわくかほのやくまくあらしゆ
しす海重忠からうとくしてまづとくとくに櫛よ
さくひりのばつことのあく義とすもあら川のあくく
こひきとすねひやるかくらと門りわのとくとくに
きすまわるかくーかのぬくにのうもくとくとくに
さゆへりすと鶴をさにひきいはげてかくくとくとく

かくつ十人をうひとてあらてやくとひとく通
すく大きらゐとくとくひまちもとぬ物はくとく
くはゆかとくとくあくはいとくひもくらちて人どう
けりうくとあきあきとくとくまくのねおと風船とくとく
のうとく風のまくとくとくめくとくとくとくとく
ちくとくとくひとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あうおき
ひとくつす
かくとくとく
かくとくとく
かくとくとく
かくとくとく

おまえこちあけうといときくへやとものうちひと
あれあつれてから身とハナリあるあらんにやしませ
かまむ女のすまひをうづく

六樹園の

石川 雅望

都年振前編一巻我師六樹園先生所
著也嘗借鈎其男清澄子頃日求先生
校正一過乃上梓以藏文庫云文化戊
辰九月山本長祥識于六出園

後篇都のてふ

全嗣出

吾嬬那方理

六樹園先生註文と集する

二冊同

通俗排悶錄

六樹園先生註譯

十一卷同

孝行 忠義 貞烈 友愛 高誼

琦行 明斷 義俠 玩世 仙縁

靈異

明あたて清朝の始まの序き奇詭と
集する書ある

六樹園飯盛著

文化六年己五月

麹町平川丁貳丁目

東都

角丸屋甚助梓

